

特活の達人!

～「係活動」の巻～

話し合っつった係(組織)で、
学級生活を楽しく豊かにしよう!

「特活の達人!」は、
今号から新たにスタートする
「達人シリーズ」です。
特別活動のいろはを、
達人にQ&A形式で
聞いてみました!

事例紹介

係活動で、子どもたちがこんなに変わりました!

お笑い係が、ある日の休み時間にお笑いの会を催しました。何人か外でドッジボールをやったような児童もいましたが、「今日はお笑い係の発表だから聞いてやろうよ!」という声が上がりました。あとでお笑い係のメンバーは、「今度、他の係の発表のときは、自分がその発言をしたい。」と言っていました。逆の立場に立つ機会があることで、規範意識や信頼関係、共感的な態度などを身につけていくのだと思いました。



2年生の担任だったとき、図書係が学級で読み聞かせをしていました。評判がよく、嬉しかったので、その係の一人ひとりがすごく自信をもってきました。そして、「1年生に読み聞かせをしてあげたいので、1年生の先生に相談に行ってもいいか。」と尋ねてきました。それは実現し、学年を超えた関わりをもつようになりました。また、1年生も、「あんな活動がしたい!」ということにつながっていったようです。



係活動の留意点

チェックポイント ⑦



- その係活動は、継続的に活動できるか?
- 複数名が協力し合って活動できているか?
- 教師の手助けになるだけの係活動になっていないか?
- 児童がその係活動を必要としているか?
- 係活動の成果が、学級生活の向上に反映されているか?
- 児童の創意工夫が生かせる活動になっているか?
- 係活動が、児童の負担になり過ぎていないか?

月ごとや学期ごとなど機を見てふり返り、子どもの気づきを促すことが大事ですね。

係活動の時間をつくり出すのに、給食を係ごとのグループで食べるのも手ですね。

“達人”の係活動のヒント名言集

係の名前をつけることは、“自分たちだけの”感を出させるのによいですね。

他の学年の教室を見に行くと、子どもが食いつきやすそうな係を調べるともよいですよ。



柔軟で弾力性に富んだ組織づくりを!

所属する全員が、何らかの役割を分担できる組織

活動内容を、話し合いで改善していける組織

児童による話し合いによってつくられた組織

どの児童にも理解しやすい、分かりやすい組織

役割や所属は固定しない組織

一人の児童に偏らない組織

児童が、自分たちがつくったという意識がもてる組織

児童の必要感からつくられた組織

どの学年でも、係をつくるときの参考にしてください!

達人直伝!
組織づくりの
「キーワード」

秘



「係活動の価値」って何？

● 学級生活を豊かにするために、自分が役割を果たせる活動の場を見つけることで、自己有用感が高まる。

● 学級のために働くことに喜びを感じる活動を通して、勤労奉仕の大切さや意義を理解できる。

● 係活動が友達づくりのきっかけになり、協力や信頼に基づく友情を大切にする意識が高まる。



「係活動」と「当番活動」の違いは、意識して指導したいですね。



「当番活動」は、教室内において、なくてはならない、やらなくてはならない活動です。



子どもたちの発意・発想によって、活動の内容がより深まってくるのが「係活動」だと思います。



「係活動」は、児童がその係の仕事を見たいとして創意工夫し、学級生活を自主的に豊かなものにしていく活動というところがポイントですね。

Q1

係の種類は、どうやって決めるのですか？

A 学級会で、「この学級が楽しく豊かになるには、どんな係をつくるとよいか。」を話し合って決めていきます。



こんなことも伺いました！

- 係活動はグループでの活動が原則ですが、低学年のうちには一人一役も許容しています。何かの役割をすることによって、責任感を養ったり自己有用感を得たりできます。そんな経験をさせることを優先してもよいかと考えています。

係の種類例

- レクリエーション係／クイズ係／お笑い係／俳句係
漫画係／相談係／図書係／学級新聞係／パーティー係 等

Q2

どの係に所属するかは、どのように決めますか？

A 係の仕事の内容に応じておおよその人数を決めてから、児童の希望を聞きながら決めていきます。



こんなことも伺いました！

- 必ずグループでの活動になるようにして、さらに男女混合になるように配慮しています。
- 1つの係に決めた人数より希望者が多くなった場合は、A・Bなどの2つのグループに分けて、1人の活動量を保障します。
- 逆に希望者が少なすぎる場合は、自分たちでやろうとした係の目標をきちんと達成できるように、みんなで話し合って、解決方法を考え出すようにしています。

Q3

係活動を常に活性化するには、どうすればよいですか？

A 教師が、「時間」と「場所」と「用具」の確保をし、児童とていねいに共有することがヒケツだと思います。



こんなことも伺いました！

- 学校や学級として決まっているルールや、お金のかかること、安全面に配慮が必要なことに関しては、子どもたちだけで決められない・決めてはいけないことだと知らせる必要があります。そこは教師の出番です。そして、教師が確保したいのが「時間」「場所」「用具」です。
- 時間については、限られた時間の中で確保するしかないで、教師の側で係活動に使える時間を、はっきり整理して示す必要があります。学校の実態に応じてですが、例えば、
▶ 休み時間／放課後は午後4時まで／朝は午前7時50分から、朝の会が始まるまで など

Q4

発達段階的に配慮することはありますか？

A 係活動も、発達段階をふまえて、その段階に応じて、教師が意図的に関わっていくことが必要です。



こんなことも伺いました！

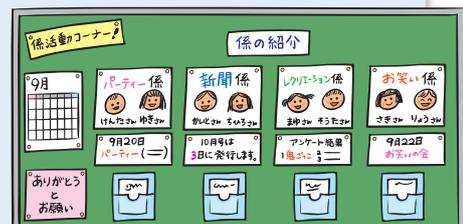
- 年度初めのオリエンテーリングにかける時間は、学年が上がるほど少なくてよいと思いますが、どの学年でも大切だと思います。
- 1年生入門期・低学年** 楽しいという意識、当番→係活動へ
- 「お仕事見つけ」などでスタートし、年度末にふり返りをかねて指導をするのがよいと思います。
 - 低学年のうちには、一人一役があってもよいと考えています。全員が必ず経験し、皆に貢献する態度や責任感、自己有用感を養うことを優先したいですね。

中高学年 創意工夫や自主性、積極性もち、質を高めて

- 中学年で係活動を十分に経験し、運営する喜びや苦勞を乗り越えた達成感などを味わうと、高学年になってからの委員会活動で、全校を舞台に活動・活躍できるという期待感をもつ児童になります。

【小学校学習指導要領 第6章特別活動（学級活動）の内容において】

低学年のうちには、「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の指導に重点をあて、高学年になるにつれ、「(1) 学級や学校の生活づくり」の割合を増やしていく。



- 用具については、せっかく係活動で使ってよいものがあるので子どもたちが認識していない場合があるので、例えば、「そのマジックは、あなたたちが使っているものなんだよ。」と声をかけて意識させる必要があります。